

ベトナムの旅 2025

旅のチカラ研究所

2025 年 10 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

アジア版ミステリーツアー第二弾に参加してきた。しかし募集のパンフレットを見ると、行先はベトナムだとすぐに分かってしまったので、ミステリーツアーという感じは全くしなかった。それでもとても有意義な旅だったので紹介したい。

■ハロン湾

陽光の下、私はゆっくり進む船の上から何気なく海面を見ている。

するとキラキラと光るいくつもの小さな白いものが海面から飛び出しては、再び海面に吸い込まれていく。その白いものは、よく見ると小さな魚で、それが数十匹の群れを成してトビウオのように飛んでいる。いやトビウオのように羽根を広げて海面を滑空するのではなく、モンシロチョウが隊列を組むようにして海面の上を飛び跳ねている。

海の色はやや緑色がかっていて、澄んではおらずほんの少し白濁している。日本の温泉ではよく見る色だが海の色としては珍しい。



【白い魚たち】

目線を海面からその先に移すと、島が見える。それは海面に突き出た山というようなもので、そんな山が数多く見える。山の形は反り立っているものもあれば、ゴツゴツしたものあり、独特の世界とでもいうものだろうか。

このような光景はどこかで見たようなことがあり、思い起こすと日本三景の松島に何となく似ている。しかし私の記憶では松島湾に浮かぶ島々はどれもが低かったが、今私の目の前に見える島々はもっと大きくて高い。そして島の数は松島湾よりもはるかに多い。

もう少し曇っていれば、あるいは雨ならば中国の水墨画の世界のようにも見えるかもしれないが、今は陽光が降りそそいでいる。



【ハロン湾の島々】

実は今、私はベトナムのハロン湾を巡るクルーズ船に乗っている。私も妻も日本からのツアーに参加して、昨日午後に飛行機でハノイに着いてハロン湾が見えるホテルに泊まった。そして本今朝から貸切りのクルーズ船に乗ってハロン湾クルーズを楽しんでいる。

私たちが乗っている船は2階建てで、ちょっと洒落た造りをしている。

2階部分は操舵室があって、その前は緑色の人工芝が敷かれたオープンエアーの広いテラスになっている。海に向かっていくつかのベンチが置かれており、ベンチに座ると海風が当たって気持ち良いが、少し蒸し暑い。

1階部分は間仕切りや柱のない大きな部屋で、テーブルが8つある。各テーブルには椅子が6脚あるから、50人くらい収容できるレストランになっている。1階は空調が効いていてとても過ごしやすい。



【クルーズ船の2階 操舵室とテラス】



【クルーズ船の1階 レストラン】

■ベトナム人の女性スタッフ

その過ごしやすいレストランの一角で、私は海を見ていた。そうしたら私たちのテーブルの上に船の女性スタッフが土産物を置いて行った。もちろんそれはプレゼントではなく、売のためのものらしい。

妻はその土産物が気になっているようで、私に「2つ買うと安くなるかしら？」と聞いてきた。そこで私は女性スタッフをアイコンタクトで呼びよせて、翻訳機を使って「2つ買うから安くしてくれるか？」と聞いた。

すると彼女は即座に「2つだと〇〇円になります」と日本語で、しかも日本円で答えてきた。

私は「何だ、翻訳機要らないね」と日本語の会話になる。

彼女は私の妻が買いそうだと察知して、私たちのテーブルの上に集中砲火をするように土産物をたくさん持ってきて並べ始めた。

私は「3つならばいくら？」とか、「ドンなら安くなる？」とか、あの手この手で値下げ交渉をするが、なかなかこちらの思い通りの価格にはならない。結局、彼女の言う価格で押し切られた。

私はこのような値切り交渉が好きで得意だが、今回どうして押し切られたのかというと、交渉を通じて彼女はとても勤勉で非常に頭が良いことが分かったからだ。日本円とベトナム通貨ドンの換算とおつりの計算を同時にこなして非常に手際良いことに感心してしまって、その彼女に敬意を表して彼女が示した価格で手を打った。

ベトナム人は勤勉で日本人とよく似ているという評判を聞くことがあるが、この時の私はそれ以上に感激してしまった。

■ボーホン島

ハロン湾には大小さまざまな島が 2000 島以上あり、その中のボーホン島という大きな島の船着き場に船が着いた。出航してからほぼ 1 時間半経っており、ボーホン島はハロン湾のほぼ中心にあるというから、ハロン湾全体の大きさが想像できる。

島の中心部にはスンソット洞窟という鍾乳洞があり、ハロン湾で最も大きく美しい鍾乳洞だと昨日から同行している日本語堪能なベトナム人の現地ガイドが教えてくれる。

鍾乳洞があるということは石灰岩でできているということになる。だからハロン湾の海水の色は多少白濁しているのだと合点がいった。

ボーホン島に上陸する。南国特有の木々が生い茂った森の中を少し歩き、数十段の石段を登り、洞窟の入り口に到着する。足元の明かりを頼りに石畳の道を進むと、鍾乳洞という全く別の世界が広がっている。

鍾乳洞は実に広い。空間部分がとても大きくて圧迫感がない。海拔約 25m の場所にあるこの洞窟は、壮大で魅力的な美しさを備えており、海の真ん中に浮かぶオペラハウスとでも言ってもいいかもしれない。

日本で鍾乳洞といえば涼しい場所だが、ここは蒸し暑い。耐えられないレベルではないが、持っていた扇子が役立っている。



【ボーホン島のスンソット洞窟 中央左の赤丸の中に人がいる】

この洞窟は自然の美しさだけでなく、伝説も残っている。洞窟内には剣と槍のような岩があつて、ベトナムの英雄が中国の侵略者と戦って倒した場所だとガイドは言っていた。そのような伝説があることで、ベトナム人の中国に対する気持ちが伝わってくる。

洞窟の出口は高い場所にあつて、そこは船着き場の真上の断崖の一角に位置している。そのため、これから島に上陸しようとする船、上陸した観光客が戻ってくるのを待っている船、それらを上から眺めることができる。



【ボーホン島のスンソット洞窟の出口からの景色】

■船で昼食

ボーホン島から船に戻ると、テーブルの上の土産物は綺麗に片づけられている。そして昼食の料理が運ばれてくる。

料理は海老の素揚げから始まり、蟹の甲羅の肉詰め、焼き飯(チャーハン)、揚げたてのベトナム風さつま揚げ、スープ、イカと野菜の炒め物、魚の煮付け、そしてデザートには竜眼(リュウガン)と呼ばれるフルーツが出てくる。

竜眼は直径2~3cm くらいの茶褐色の果実で、皮をむいて食べる。その実は透明なゼリー状で、中央に大きな種子がある。味も食感も私にとって初体験だが、なかなかいける。



【竜眼 下は皮をむいたもの】

料理は全て船の1階の後方にある小さな調理室で調理されたらしい。乗組員は船長含め3人いるが、船長は操舵室で舵を握っており離れられない。他に乗組員は先ほどの女性スタッフと若い見習いのような少年の2人になる。おそらく彼女が主体になって手際の良く作ったのは容易に想像できる。ここでまた彼女に敬意を表することになる。

■ティートップ島

ティートップ島という尖った円錐形をした島がある。ガイドの話では頂上からはハロン湾が360度見渡せるが、登るには480段の階段があるという。

島の名前は1962年に訪れた当時のソ連の宇宙飛行士の名前からとったというから、ベトナムと旧ソ連そしてロシアとの蜜月ぶりがうかがえる。



【ティートップ島】

ティートップ島に上陸し、私たちは気合を入れて登り始める。

480段は結構な段数で、暑さという敵もいる。さらにベトナムは日本よりも湿度が高く、いわゆる湿気が肌にまとわりついてくる。

階段は一人が登るにはちょうどいい幅だが、一方通行ではないので、降りて来る人々とすれ違うことになる。そのすれ違う人たちはベトナム人よりも中国人が多い。ハロン湾から中国国境まで150kmくらいで、陸続きなので中国人も多く来るのだろう。

登り始めて約20分、何とか頂上に到着する。頂上には立派な屋根のある展望台があって、何本かの木があるので木陰もある。携帯電話の基地局もあり、電気がきているので冷蔵庫があって、売り子の若い娘は冷蔵庫の側で椅子によりかかって昼寝をしている。

島の頂上から見るハロン湾もまた素晴らしい。20 分間の苦行登山は決して無駄ではなかったと納得する。



【ティートップ島の頂上からの眺め】

■ どこがミステリーなのか

時間があるので船の中で他のツアー客たちと話をする。ツアー客の誰に聞いても今回のミステリーツアーの行先はベトナムだと分かっていたようで、それを知った上でツアーに参加してきたと言っている。

パンフレットには一見してハロン湾と分かる写真があつて、旅行初心者ならとにかく、ミステリーツアーに参加するような人たちは百戦錬磨のベテラン旅行者たちだから簡単にベトナムだと分かってしまう。どうしてこのような見え見えの写真を載せたのか理解に苦しむところだが、その写真を除いてしまうと料理の写真だけになってしまい、旅行のパンフレットの体裁を成してなくなるから痛し痒しかもしれない。

さらにガイドはミステリーツアーだということを忘れて、次に行く場所を直ぐに明かしてしまう。やはり海外のミステリーツアーは難しいのだろうと改めて感じる。

このミステリーツアーを選んだ理由をツアー客たちに聞くと、2つあると言っている。

ひとつは前回のアジアミステリーツアー第一弾の上海ミステリーツアーが良かったからということで2匹目のドジョウを狙ってきた。そしてもうひとつ10万円という費用の安さになる。昨今の物価高で国内旅行でもそのくらいするので、それならば海外旅行の方が魅力的に映るのは当たり前のことだろう。

今回のツアー客は全部で27人、女性だけの4人組と3人組がいて、あとは中高年のカップルなので、男性は10人、女性は17人になる。そして日本から同行している添乗員と現地ガイドが付き添っている。

■ホテル

昨晚泊まったホテルはハロン湾を臨む5つ星ホテルで、ここに2連泊する。

豪華なホテルなので開放的なエントランスとロビーが印象的で、ハロン湾を見ながら泳げるプールもある。



【エントランスとロビー】



【プール ハロン湾が見える】

添乗員はこのホテルはデザイナーズホテルなので、デザインに凝っている反面、使いにくい面もあると言っていた。

確かに変わっている。バスタブと洗面台があるバスルームには、ガラス扉のシャワールームと木製ドアのトイレがある。問題はそのトイレのドアとバスルームのドアが共通になっており、トイレのドアを閉めるとバスルームの入口のドアがなくなり、バスルームのドアを閉めるとトイレのドアがなくなるという不思議な構造になっている。トイレと洗面台は同時に別々に使えるが、トイレとバスタブは両方同時に使わないことを想定しているのだろうか。

シャワールームとバスタブが別になっているから、シャワーで体を洗ってからバスタブに入ることができる。これは使い勝手が良い。

さらに驚くことはトイレの便座にウォッシュレットが付いている。さすがに日本製ではないが、私にとっては海外のホテルでは初体験になる。

2連泊なので2回の朝食はホテルで食べる。ビュッフェスタイルで中華、洋食、ベトナム料理が揃っている。

私は「フォー」を主食にして果物をたくさん食べるようにした。日本の国内旅行ではサラダを多く食べるようにしているが、ベトナムでは生野菜を水道水で洗っているから、生野菜は食べないようにした。

■ブンチャー

私が知っているベトナム料理は「フォー」だけだが、「ブンチャー」と呼ばれる麺料理の方がベトナム人にはむしろ人気だとガイドが言っている。簡単に言えばフォーは汁麺で、ブンチャーはつけ麺ということで、ブンチャーはベトナム北部のハノイの名物だという。

私にとってベトナムは2回目の訪問だが、前は旧サイゴンつまり現ホーチミンを中心とした南ベトナムで、ハノイを中心とした北ベトナムは初めてになる。それゆえだろうかハノイ名物のブンチャーは食べたことがない。

レストランでブンチャーが出てくる。ザルの上に米の麺、そして野菜と焼いた豚肉と肉団子が乗っている。食べ方は甘酸っぱい汁に野菜と肉を入れて、麺をつけて食べると教えてもらう。

味は絶賛するほどではないが、まあまあいける。

ただブンチャーが出てくる前に、揚げ春巻き、海老と野菜の炒め物、スープが出てきており、私の胃袋は結構膨れていたから、絶賛に至らなかったかもしれない。

最後に出てきたデザートは“ベトナム風ぜんざい”と呼ばれている「チェー」が面白い。チェーはベトナムで一般的に食べられているスイーツの一つで、甘く煮た豆類や芋類、フルーツ、寒天などをココナッツミルクと合わせたもので結構いける。



【ブンチャー】



【チェー】

■ハノイ市内

私たちを乗せたバスはハノイ市内に入る。街は混とんとして喧騒の世界といったところだろう。バスも高級車も電気自動車も古い自家用車も走っているが、オートバイが非常に多い。

自動車は日本車が多く、その次は韓国車だろうか。ヨーロッパ車は少ない。

喧騒の世界の中をバスは進んでいく。信号待ちでバスの隣に何台かのバイクが停まると、その中の1台は家族5人で乗っている。ガイドは「ベトナムの法律では3人までなのですけど・・・」と歯切れが悪い。警察も見ても見ぬふりらしい。

そして交通渋滞につかまる。ガイドは「この先にイオンモールがあって、大変人気があるのでいつも大渋滞ですよ」と笑いながら言っている。



【喧騒の世界】



【一家5人乗りバイク】

■ベトナムの歴史

ベトナムの歴史を超簡単に整理してみると以下のようなになる。

- ・紀元前より中国に支配されていた。
- ・10 世紀に独立して王朝ができ、大越国として中国から独立する。
- ・19 世紀にはフランスの植民地になる。
- ・第二次世界大戦後に南北ベトナムに分かれる
- ・1975 年に統一される

そしてこれらの痕跡をハノイ市内で拾ってみることにする。

ハノイ市内のタイ湖に建つ「鎮国寺」は、6世紀頃にできたとされるベトナム最古の仏教寺院になる。

寺の中の看板類は全て漢字で書かれているから、中国の影響が色濃く残っていることがわかる。それゆえ中国に來ているような気分になる。

ガイドはベトナム国民の 7 割が仏教徒だと教えてくれる。



【鎮国寺】

世界遺産「ハノイにあるタン・ロン皇城遺跡の中心地」を訪れる。

この遺跡は 11 世紀にベトナムの李王朝が中国からの独立を宣言して、建設された。そのため中国が建造した要塞の上に作られた。

李王朝はベトナムの歴史上非常に重要な王朝で、民族意識の高揚、独自の文化を形成し、政治と外交を発展させた。



【タン・ロン皇城】

ハノイ大聖堂にやってくる。この教会の外観はフランスのノートルダム寺院に似ていると、ガイドが自慢そうに言っている。確かにそう言われればそう見えないこともない。

ベトナム人はかつての宗主国のフランスをどのように見ているのか、私にとって気になるところで、ガイドの言葉から察すると比較的好意的のように聞こえる。



【ハノイ大聖堂】

“ベトナム建国の父”のホーチミンが眠る「ホーチミン廟」を訪れる。

私たちが写真を撮っていると警察官がやってきて追い出され、その直後にパトカーに先導された高級自動車が目の前を通り過ぎていった。高級自動車にはロシア国旗がたなびいていた。

ロシアはずっと友好国で、ウクライナに侵攻している現在も変わらないらしい。



【ホーチミン廟】

タン・ロン皇城遺跡の地下には南ベトナムと北ベトナムとの統一戦争（いわゆるベトナム戦争）の時に掘られた防空壕があり、司令部が置かれていた。その司令部の部屋が公開されている。

中央にはホーチミンの写真が飾ってあるが、ホーチミンは 1969 年に亡くなっているから 1975 年に祖国が統一されたことを知らない。



【タン・ロン皇城遺跡の地下司令部】

アメリカが介入したベトナム戦争は私たちの記憶にも新しい。しかしベトナム人のガイドは、あの戦争のことを“アメリカ戦争”と呼んでいる。最初は違和感があったが、良く考えるとそれはベトナム人にとっては当たり前で、アメリカと戦ったからアメリカ戦争になる。

これを聞いて、私たち日本人はすっかりアメリカ側に立っていたことに気が付く。本来ならば“ベトナム統一戦争”とか“越米戦争”とかになるのにベトナム戦争はやはりおかしい。

そしてアメリカ戦争のことを話すガイドの口調が厳しくなっていることに気が付く。さらに今も残る枯葉剤の被害の話をしている。

対して、原爆を落とされた日本人はアメリカのことをどう思っているのだろうか。

迎賓館の前を通る。今年 4 月に石破総理も泊まったとガイドが説明してくれる。

ガイドが実に興味深いことを言っている。来年より小学校 3 年生から日本語教育が始まるという。

これは世界各国を旅してきた私にしても信じられないことで、ベトナムの日本に対する友好や経済的繋がりの本気度を感じた。



【迎賓館】

■空港にて

豪華ホテルに2連泊してハノイ市内を観光した後、帰国の途につくために空港にやって来ると、大勢の人々でごった返している。雨が降っているのに空港ターミナルビルの外にまで溢れているから凄まじい。

ガイドは、海外に出稼ぎに行く人たちの見送りのために家族や親戚縁者が集まっていると言っている。



【ハノイの空港のターミナルビル入口付近】

全員が日本に行くわけではないだろうが、日本語教育の話を聞くと出稼ぎ先として日本は人気があるのだろう。

私たちが乗る成田行の飛行機の搭乗ゲートに白いワイシャツのような制服を着た若い男女のベトナム人たちが集まってくる。妻は私に「留学生かな？」と聞いてくるので、私は翻訳機を持って彼らのところに行き、根掘り葉掘り聞き始める。

「日本に何をしに行くのですか？」と聞く。

たどたどしい日本語で「学生です」と返ってくる。

「何年くらい日本に滞在するの？」と聞く。

「5年です」と言っている。

「あなたたちは何歳ですか？」とさらに聞く。

「18歳です」と明るく返事をしてくれる。

私は「応援しているよ」と言って、戻って妻に伝える。妻は「やっぱりね」と言いながら彼らに手を振っていた。

■旅の記録

実施は2025年9月25日（木）～9月29日（月）の4泊5日になる。尚、ツアーは9月26日から3泊4日だったが、成田空港の集合時間が朝早くて間に合わないので成田空港近くに前泊した。それも含めての行程を示す。

- ・ 1 日目 19 時に自宅を出て電車に乗って成田空港へ、
空港近くの「東横 INN 成田空港本館」にチェックイン
- ・ 2 日目 ホテルで朝食を食べて 6 時 30 分にホテルを出発、15 分で成田空港に着き、
9 時 30 分のベトナム航空直行便でハノイへ 5 時間 30 分のフライト、時差 2 時間
現地時間 13 時 00 分にハノイ空港着、ハロン湾までバスで 200km 移動し、
レストランで夕食、ナイトマーケットに立ち寄り、
ホテル「ザ・ヨット (THE YATCH BY DC)」にチェックイン
- ・ 3 日目 8 時に宿を出て、世界遺産「ハロン湾」の貸切りクルーズ、船内で昼食、
15 時に下船、「SAIGON HALONG HOTEL」のレストランで夕食、ホテル連泊
- ・ 4 日目 9 時に宿を出て、バスでハノイに向かい、途中「GIFT HOUSE」で買い物と休憩
ハノイのレストラン「QUAN AN NGON」で昼食を食べ、
世界遺産「ハノイにあるタン・ロン皇城遺跡の中心地」を見学、
ハノイ市内（ホーチミン廟、鎮国寺、ホアンキエム湖、ハノイ大教会）を見学、
スーパーマーケットで買い物、レストラン「MAISON VIE」で夕食、
22 時 30 分ハノイ空港到着
- ・ 5 日目 0 時 20 分ハノイ空港発のベトナム航空直行便で約 5 時間のフライト、
7 時 30 分成田空港に到着し、帰宅

夫婦 2 人分の旅行費用の総額は約 27 万円、前泊も入れて約 4 日間でこの値段は安い。その詳細を記す。

- ・ ツアー代金 244220 円（2 人分 基本料金 200000 円、サーチャージや税金等 44220 円）
- ・ 前泊費用 9310 円（2 人分、東横インのツインルーム）
- ・ 国内交通費 約 10000 円（2 人分 自宅～成田空港往復）
- ・ 現地費用 約 10000 円（土産代、飲み物代など）